

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 令和4年度3月号

### ○ 概要

- (1) 令和4年度3月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,433億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+3.3%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,536円（伸び率▲4.8%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,998億円（伸び率+10.6%）、薬剤料が5,421億円（伸び率+0.9%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,126億円（伸び率+3.9%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,315円（伸び率▲8.8%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.71種類（伸び率+0.4%）、28.1日（伸び率▲2.9%）、70円（伸び率▲6.5%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料4,142億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲46億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の751億円（伸び幅+7億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+50億円（総額546億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,142億円 (▲46億円)	39 その他の代謝性 医薬品(751億円)	21 循環器官用薬 (643億円)	11 中枢神経系用薬 (576億円)
0歳以上 5歳未満	23.5億円 (+4.7億円)	44 アレルギー用薬 (9.4億円)	22 呼吸器官用薬 (4.0億円)	61 抗生物質製剤 (2.6億円)
5歳以上 15歳未満	116.8億円 (+17.1億円)	44 アレルギー用薬 (52.0億円)	11 中枢神経系用薬 (28.8億円)	39 その他の代謝性 医薬品(7.2億円)
15歳以上 65歳未満	1,576億円 (+33億円)	11 中枢神経系用薬 (288億円)	39 その他の代謝性 医薬品(288億円)	21 循環器官用薬 (199億円)
65歳以上 75歳未満	907億円 (▲67億円)	39 その他の代謝性 医薬品(199億円)	21 循環器官用薬 (163億円)	42 腫瘍用薬 (163億円)
75歳以上	1,519億円 (▲34億円)	21 循環器官用薬 (278億円)	39 その他の代謝性 医薬品(256億円)	42 腫瘍用薬 (202億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,536円（伸び率▲4.8%）で、最も高かったのは北海道（11,475円（伸び率▲4.5%））、最も低かったのは佐賀県（8,057円（伸び率▲3.0%））であった。  
また、伸び率が最も高かったのは佐賀県（伸び率▲3.0%）、最も低かったのは愛媛県（伸び率▲8.0%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注）</sup>	83.7 %	+1.6 %
薬剤料ベース	20.8 %	+0.6 %
後発品調剤率	80.3 %	+1.6 %
（参考）数量ベース（旧指標）	60.0 %	+0.8 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.9 %	+29.6 % (0歳以上 5歳未満)	▲5.9 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.8 %	31.1 % (100歳以上)	14.6 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	83.7 %	88.5 % (100歳以上)	78.2 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	944 億円 (+33 億円)	21 循環器官用薬 (265 億円)	11 中枢神経系用薬 (161 億円)	44 アレルギー用薬 (121 億円)
0歳以上 5歳未満	9.5 億円 (+3.3 億円)	44 アレルギー用薬 (5.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)	62 化学療法剤 (0.6 億円)
5歳以上 15歳未満	28.3 億円 (+6.5 億円)	44 アレルギー用薬 (20.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.1 億円)
15歳以上 65歳未満	347 億円 (+23 億円)	21 循環器官用薬 (75 億円)	11 中枢神経系用薬 (73 億円)	44 アレルギー用薬 (70 億円)
65歳以上 75歳未満	199 億円 (▲11 億円)	21 循環器官用薬 (72 億円)	11 中枢神経系用薬 (25 億円)	23 消化器官用薬 (23 億円)
75歳以上	361 億円 (+11 億円)	21 循環器官用薬 (117 億円)	11 中枢神経系用薬 (61 億円)	23 消化器官用薬 (52 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,445 円	1,852 円(北海道)	1,195 円(佐賀県)
処方箋 1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.2%	▲2.4 % (島根県)	▲6.4 % (熊本県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	83.7 %	90.4 % (沖縄県)	80.2 % (東京都)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.8 %	23.9 % (鹿児島県)	18.2 % (京都府)
後発医薬品調剤率	80.3 %	85.9 % (沖縄県)	76.1 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	60.0 %	67.4 % (沖縄県)	56.3 % (東京都)

## 〔利用上の留意点〕

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和4年度3月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。